

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02220

研究課題名（和文）東南アジア大陸部で発展した積徳行文献の体系解明

研究課題名（英文）Classification of Buddhist Manuscripts Developed in Southeast Asia: the Texts regarding the Practice of Merit-making

研究代表者

清水 洋平（SHIMIZU, Yohei）

大谷大学・真宗総合研究所・研究員

研究者番号：50387974

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：ほとんど知られてこなかったアーニサンサ（積徳行）文献群について、文献の全体的な系統が整理されたデータベースを構築した。タイ仏教の特徴的な現実相との対応が読み取りやすい5つのテキストを選定し、コーム文字からローマ字に転写し、パーリ語から日本語へ翻訳した。この作業により、未解明であったアーニサンサ文献の内容を明らかにした。『サッパダーナ・アーニサンサ』は4種のヴァージョンが存在する。それらの比較研究を行い、各版の関係や存在理由、並びに厳格な仏教教理の立場とは異なるタイ仏教の現実相の一面に対して、同文献がどのような仏教的根拠をどのような伝統的パーリ仏典に求めていたのかを捉えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アーニサンサ文献は、東南アジアの仏教文化理解において重要である積徳行について、その文献的根拠を証する資料として一部に知られ、その研究の必要性が指摘されてきた。だが貝葉写本としてのみ存在することから実態は不明のままであった。本研究によりアーニサンサ文献の全体像が把握され、上述のような文献研究が進められたことは、タイ仏教における「積徳行」の文献学的な実証が可能になったことを示す。そして東南アジア撰述文献の展開までもを含めた新たなパーリ仏典発展史の一端を明らかにできるのである。

本研究成果は、社会学や歴史学の立場からなされているタイ仏教の現実相の研究に基礎資料と新たな知見を提供することに繋がる。

研究成果の概要（英文）： We have created a database that organizes entire lineages of the texts of Anisamsa (merit-making) literature, which has been virtually unknown. Utilizing the database, we selected five texts that are easy to grasp in terms of how they correspond to the unique reality of Thai Buddhism. We transcribed the texts from Khom script into Roman script and translated them from Pali into Japanese. This work has shed light on the unexplained content of the Anisamsa literature.

There are four versions of the Sabbadana Anisamsa. Through a comparative study of these versions, we have managed to understand the relationships among each version, the reasons for their existence, as well as how and from which type of traditional Pali Buddhist scripture this literature derives a premise on the Buddhist concept with regard to the aspects of the reality of Thai Buddhism that differ from the standpoint of orthodox Buddhist doctrine.

研究分野：人文学（仏教学、東南アジア仏教）

キーワード：タイ仏教 東南アジア仏教 上座部仏教 積徳行 アーニサンサ 貝葉写本 パーリ語文献 蔵外文献

1. 研究開始当初の背景

仏教における功德の観念を具現する「積徳行」は、現在においても東南アジア大陸部や東アジア諸国に広く存在しており、功德を積むことが善行の一つとして重視される。

東南アジア大陸部各地に根付いた積徳行は、功德の観念も含め地域あるいは民族により多様性があると想定される。その宗教実践に着目することにより、各地域の社会と文化の特徴の一端を捉えようとする研究が社会学・歴史学の研究者を中心に行われている。一方、仏教学者は仏教文献を精査することにより、功德の観念の研究を中心に行っている。

現在、こうした研究を通じて浮き彫りになってきた問題点は、現実にもみられる功德を積むという宗教実践(現実相)と、積徳行の拠り所となる文献的根拠との間に乖離が少なからず存在し、現実相を文献的記述から明確に説明できないという点である。

この問題が生じる原因は、仏教学者が積徳行という宗教実践に対して、その文献的根拠を伝統的パーリ仏典(正典としてのパーリ三蔵及びその註釈文献)にのみ求め、それ以外のいわゆる蔵外仏典(東南アジア撰述仏典など)の存在を意識できていなかったことにある。

その理由としては、東南アジア大陸部:特にタイで伝承され保存されてきた蔵外仏典の多くは、現在も一部寺院に貝葉写本として無雑作に保管されているのみであり所在目録もほとんどない。そのため、国内外の研究者がそれら原典資料へアプローチすることが困難であり、研究があまりなされていなかったということがある。(加えて、貝葉への書写の伝統が失われて久しい現代のタイ僧侶も、同地域のパーリ語貝葉写本が伝統的にタイ文字ではなくコーム文字(主としてパーリ語を記述するために使用された初期クメール文字)等で書かれているため、それらを読むことができないという現実がある。よって、彼らは積徳行を説くために日常使用する説教本のルーツになる仏典を意識できないということがある。)

これに対し筆者は、科学研究費助成事業の支援を受け2007年度より2015年度まで、3つのプロジェクトにおいて、タイ国を中心とする「東南アジア撰述仏教説話写本の研究」を一貫して行ってきた。今迄調査が手薄であったタイ国中部地域の王室寺院10ヶ寺の写本調査を行い、所在情報のデータベースを作成した。加えて、タイ所伝の蔵外仏典を中心にそれらの写本資料をデジタル画像として約4万枚入手することに成功した。その結果、それら蔵外仏典の中に、積徳行という宗教実践と伝統的パーリ仏典との隔たりを取り持つ「アーニサンサ(Ānisaṃsa)」と題名に付される文献が、今迄知られていたより様々に、一つのジャンルを形成して存在することが明らかになった。これは、同文献がタイで大いに発展したことを示唆するものである。

2. 研究の目的

16~19世紀の東南アジア大陸部:特にタイで発展し、独自に編纂された積徳行という宗教的実践を勧奨する文献:アーニサンサを考察し、ほとんど知られていなかった同文献群の全体像を把握すると共に、伝統的パーリ仏典と対比・校合し、パーリ仏典発展史上におけるアーニサンサ文献編纂の目的と変遷を究明する。

これらを通じて、東南アジア仏教を知る上で最も重要な概念である積徳行について、その実践を説くに当たり、教理的な根拠として援用したパーリ正典上の対応する文節を文献学的に明らかにする。同時に、アーニサンサに内在する、出家者側の在家者側への布教を目的とした、説法上の巧みな現実的対応を論証する。

具体的には、先ずテキストの包括的な整理を行い、アーニサンサ文献の全容を把握する。次に、同文献の中から、伝統的パーリ仏典との対応が読み取りやすいものを幾つか選定する。そして、研究期間内に、それら代表として取り上げたテキストのローマ字転写ならびにエディションを作成し、翻訳を公表することを第一の目的としている。

この作業を通じ、厳格な仏教教理の立場とは異なるタイ仏教の現実相の一面(‘タンブン’と呼ばれる在家者による種々の積徳行為)に対して、アーニサンサ文献が、どのような仏教的根拠をどのような伝統的パーリ仏典に求めていたかを正確に捉え、それらの文献に説かれる積徳行との対応を明らかにする。そのようにして、積徳行文献群の発展体系を解明すると同時に、タイに根付いた「積徳行」の意義解釈について、文献学的にその根拠を明確に示すことを目標とする。

これらのことを踏まえて、東南アジア仏教で強調される「積徳行」に対して、その行為の支柱となる同文献の撰述意図、すなわち出家者側のリアルな現実社会への対応の姿を読み解くことで、汎仏教文化圏における「積徳行」の総合的な研究の一視座を示したい。

3. 研究の方法

本研究は、従前の科研プロジェクト「タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究」を承け、その過程で作成したタイ国中部地域の寺院が所蔵する貝葉写本の所在目録と収集済み

のデジタル画像資料を活用し、まずは「アーニサンサ」(積徳行)文献グループについての整理を行い、本研究に適する代表テキストを設定する。次に、そのテキストのローマ字転写、校訂、訳出と内容研究を主とする文献研究面と、タイや欧州の図書館に存在する関連する貝葉写本の調査・収集・比較検証を行う資料面の2つのアプローチを取る。

(1)【手持ち資料の整理、テキスト選定作業】:作成済みである所在目録を精査すると、“ānisamsa”の語を題名に記す文献が約35種230束(1束は約24葉)存在している。それらに該当する収集済みデジタル画像資料を用い、題名、使用言語、テキストとしての分量(束数)の別を基に類分けを行い整序する。この作業を通じて、文献の全体的な系統を把握し、本研究を進める上での基礎となるアーニサンサ文献データベースを構築する。

次に、そのデータベースを活用しテキストを選定する。特にタイ仏教の現実相との対応が捉えやすい特徴的なものを優先的に選定する。

(2)【文献研究】:代表として取り上げたテキストについて、順次、対校可能な画像資料を基にコーム文字からローマ字に転写する作業を行う。そして同テキストについての2つ以上の写本からなる校合・校訂テキストを作成し訳出作業を行う。その後、個々のテキストに説かれる積徳行と、それらに対応する記述が見られる伝統的パーリ仏典との比較を試み、文献間の発展過程を明らかにする。

(3)【資料収集】:エディション作成等、代表として選定したテキストの精緻な文献研究を行うためには、手持ち資料の充実を図ることが必要不可欠である。アーニサンサ文献については、タイ寺院以外では、タイ国立図書館や大英図書館などにも所蔵されていることが判明している。その中で最も多く所蔵するタイ国立図書館での調査を優先して実施する。

4. 研究成果

(1) 上記の「3. 研究の方法」欄(1)で示したように、「アーニサンサ」(積徳行)文献グループ(約35種230束)についての整理を行った。この作業を通じて、文献の全体的な系統を把握し、アーニサンサ文献データベースを構築した。

(2) 文献研究では、研究期間において、タイ仏教の特徴的な現実相との対応が明らかな本研究に適する代表テキストとして、『サッパダーナ・アーニサンサ』(4種のヴァージョン)、『スヴァンナタンバ・アーニサンサ』、『シーマー・アーニサンサ』ほか2つのテキストについて、コーム文字からローマ字に転写する作業を行い、パーリ語から日本語への翻訳作業を実施した。今まで知られていなかったこれらのアーニサンサ文献の内容を明らかにできた。

『サッパダーナ・アーニサンサ』については、同名で同系統の内容を有する貝葉写本:コーム文字パーリ語で記された10束からなる写本、コーム文字パーリ語で記された1束からなる写本、コーム文字タイ語で記された写本(1束版、2束版)の存在が確認された。よって、同文献をベースにして、各版の写本の内容の比較研究に取り組んだ。

これらを通して、ヴァージョン間の関係と各版の存在理由、並びに厳格な仏教教理の立場とは異なるタイ仏教の現実相の一面に対して、アーニサンサ文献がどのような仏教的根拠をどのような伝統的パーリ仏典に求めていたかを捉えることができた。この点はアーニサンサ文献の発展体系を解明する上で意義があった。これらの成果は、国内外の学会や雑誌論文等で発表した。

(3) 資料収集については、2017年度にタマユット派の総本山第1級王室寺院ワット・ボウォーンニウェートで、同寺院所蔵写本のリストデータを頂いた。その他、タマユット派の第1級王室寺院ワット・ラーチャポーピットでは、同寺院に秘蔵されているラーマ5世寄贈の写本コレクションの見学を特別に許され知見を深めた。マハーニカーイ派の第2級王室寺院ワット・リアップ(ワット・ラーチャブーラナ)では、写本が収められている厨子を開きながら同寺院の写本の所蔵状況の確認ができた。

2018年度には、バンコクに所在する第1級王室寺院ワット・スタット、同ワット・ラーチャプラディット、ラヨン県に所在するワット・コートティムターラーム等で関連資料の調査を実施した。ワット・コートティムターラームでは、その折に同寺院所蔵の貴重な大型折本紙写本の撮影も許可され、同写本の全ページをデジタル画像として入手することができた。

その他、バンコク所在のタイ国立図書館、アユタヤ所在の Center for the Study of Ancient Manuscripts (Dhammachai Tipitaka Project)に赴き、関連資料の調査・意見交換を行った。特にタイ国立図書館では、同館が所蔵する“ānisamsa”という語がタイトルに付く貝葉写本について、その全体像の把握に努めた。そして、それら把握できたアーニサンサ文献の所蔵の全体像から、すでに本研究課題で読み進めている貝葉写本と比較対象に資するアーニサンサ文献の選別を行い、それら選択した写本文献について、複写依頼の手続きの準備を行った。

2019年度は、学問寺としての伝統を誇る第1級王室寺院ワット・プラチェートゥボン(ワット・ポー)内にある Tamnak Wasukri Residence (ラーマ1世の王子でワット・ポー寺院初代住職

のもとで出家した Wasukri 長老の庫裏のことであり、図書館（経蔵）を併設）において関連資料の調査を実施することができた。

これらを通じて明らかになったことは、アーニサンサ文献は 1 束で構成されるものがほとんどである。だが同文献群の中には、1 束で構成されるアーニサンサ文献を、何らかの目的で集成し一つの大部な集成文献として構成されているものが 2 つ存在することである。『サッバダーナ・アーニサンサ』（全 10 束）と『スッタジャータカニダーナ・アーニサンサ』（全 30 束）である。（『スッタジャータカニダーナ・アーニサンサ』については、アーニサンサ文献の中で今まで完本の現存例がないとされてきた。本研究では、当該分野で初めて同集成の全束の写本をデジタル画像として揃えることに成功した。）

同文献群に 2 つの大部な集成文献が存在し、その集成を構成する各文献がどのようなタイトルのものであるのかを示した研究は今までにない。この点を本研究で示せたことは、当該研究分野において重要であった。未だ判然としないタイに根付いた積徳行の意義解釈についての文献学的根拠に対して、新たな資料が提供されることになったからである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 清水洋平・舟橋智哉	4. 巻 68-1
2. 論文標題 Sabbadana-anisamsaの研究 - タイにおける積徳行：アーニサンサ文献の意義 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 472-478
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水洋平・舟橋智哉	4. 巻 32
2. 論文標題 タイの絵付き折本紙写本に引用される読誦經典の意味	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 パーリ学仏教文化学	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanabe, Kazuko	4. 巻 33
2. 論文標題 Sudhanakumarajataka in the Pannasajataka Composed and Handed down in Central Thailand	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 TOHO (THE EAST)	6. 最初と最後の頁 119-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 田辺和子
2. 発表標題 南方仏教の戒律
3. 学会等名 第36回成田山仏教文化講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shimizu, Yohei
2. 発表標題 A Study of Sabbadana-anisamsa - Merit-making in Thailand: The Significance of the Anisamsa Literature -
3. 学会等名 International Conference of Lumbini International Research Institute (LIRI) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水洋平
2. 発表標題 仏教經典をめぐる日タイ交流の史実と現実
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター：研究総括集会「日本と東南アジアの仏教交流」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水洋平・舟橋智哉
2. 発表標題 Sabbadana-anisamsaの研究 - タイにおける積徳行：アーニサンサ文献の意義 -
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水洋平
2. 発表標題 日本とタイの仏教交流の諸局面(2) - 經典をめぐる交流の史実と現実 -
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター：研究セミナー(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水洋平・舟橋智哉
2. 発表標題 タイの絵付き折本紙に引用される読誦經典の意味合い
3. 学会等名 パーリ学仏教文化学会第32回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimizu, Yohei
2. 発表標題 Report on the Pali Manuscript Tradition and Transmission in Central Thailand
3. 学会等名 XVIIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies (IABS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 林行夫、村上忠良、伊藤利勝、大澤広嗣、中西直樹、清水洋平、神田英昭、藤本晃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 244
3. 書名 日本と東南アジアの仏教交流 - その史実と展望 -	

1. 著者名 九州国立博物館、東京国立博物館、日本経済新聞社文化事業部編：原田あゆみ、サクチャイ・サイシン、小泉恵英、山田均、望月規史、藤田励夫、猪熊兼樹、末兼俊彦、清水洋平、二神葉子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本経済新聞社	5. 総ページ数 270
3. 書名 タイ - 仏の国の輝き：日タイ修好130周年記念特別展	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	舟橋 智哉 (FUNAHASHI Tomoya)		
研究協力者	田辺 和子 (TANABE Kazuko)		
研究協力者	チャオワリットルアンリット バン チャード (CHAOWARITHREONGLITH Bunchi rd)		
研究協力者	シーセツタワオラクン スチャー ダー (SRISSETTHAWARAKUL Suchada)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関